男性用抱っこコートの開発

○加藤　貴司[*1)]、平山　明浩[*1)]、藤田　薫子[*2)]

１．はじめに

従来の育児製品は女性用の製品が多く、製品のサイズやデザインなど男性をターゲットにした製品は見られなかった。昨今では、育児に参加する男性が急増していることから、男性をターゲットにした育児製品の需要が見込めると考えられる。そこで男女兼用の製品である抱っこ具に着目し、抱っこ具を使用しながら上から着用できる男性用衣服（コート）の開発を行った。

２．調査

抱っこ用コートを作成する上で課題となる、内包される乳児の姿勢について、抱っこ紐メーカーにヒアリングを行った。乳児の抱かれる姿勢については、股関節脱臼が最も懸念されていることが分かった。これらを防止するため、生後３ヶ月未満から使用できる抱っこ紐は「腰抱き」（図 1）といわれる乳児が座った姿勢がとれる抱き方が多い。また３ヶ月以降からは、乳児の下肢が伸展した形になる抱き方「たて抱き」（図 2）を採用する製品もあることが分かった。そこで、2 種類の抱き方の違いによるウェスト部の周長の違いを調べた。その結果、「腰抱き」は乳児の脚が成人のウエスト部分に位置するため、「たて抱き」に比べ、10～15cm ほど周長が増えることが分かった。

図 1.　腰抱き

図 2.　たて抱き

３．試作

抱き方による周長の変化に対応するために、ダッカー（コートに装着する補助布）には伸縮素材のニット生地（組織：3×2 ゴム編み）を使用した。伸縮性により周長の変化に対応可能である。コートのデザインはビジネススーツとコーディネートしやすいトレンチコートのデザインを選定した。そして、ダッカー不要時にはマフラーとして身につけることができる形状を考案し、型紙の作成を行った。ダッカーとして使用する場合は、長辺に対し 2 つ折にし（図 3）、不要時には短辺に対し 2 つ折にすることで、マフラーとしても使用可能である（図 4）。

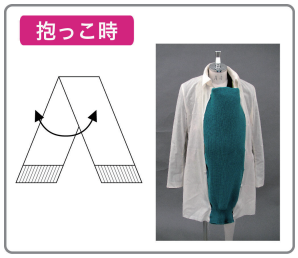

図 3.　ダッカー

図 4.　マフラー

４．まとめ

伸縮素材のニット生地でダッカーを提案することにより、「たて抱き」、「腰抱き」の抱き方の違いによるウエスト部分の周長の変化（15cm）に対応できるコートを開発した（図 5）。既製品は、ダッカー単体ではリユース方法がないため不要品となっていたが、本研究ではマフラーとして使用することが可能となり、着用者の利便性が向上した。これらを新たなダッカーとコートとして、特許出願を行った（特願 2012－181879）。

図 5.　ダッカーとして着用時とマフラーとして着用時

*1)生活技術開発セクター、*2)交流連携室

H23.4～H24.3　【基盤研究】男性用抱っこコートの開発